

新春特別インタビュー

舞行李
춤고리

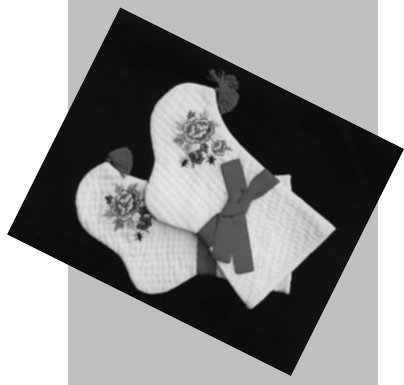
ポソンのバリエーション
버선발이 예뻐야지

— 趙寿玉さん、こんばんは。今年もよろしくお願いいたします。

寿玉 こちらこそよろしくお願いいいたします。

— 早速ですけど、寿玉さんのコンサートの時などに、「履いていらっしゃるあの白い履物は何なんでしょうか？ 何で出来ているのですか？」と訊かれることがよくあるのですが。

寿玉 ああ、ポソンのことですね。韓国の足袋です。布で出来ていますが、以前は木綿がほとんどでしたが、今ではほとんどがポリエステル混紡で、純綿で出



ポソン足へのこだわりを

来たものはオーダーしないと手に入りませんね。

— オーダーというお話ですが、韓国では皆さん、ポソンはオーダーして履いていらっしゃるのですか？ 日本では誂えで足袋を作ってくれるお店はめっきり減ってしまいました。私はここ

(第2指) が長いので和服の足袋は既成では履きにくいのです。

寿玉 韓国でも今では、ほとんど見かけませんね。私が最初に韓国に行った頃は「ポソン屋」という看板を見かけましたが、近頃ではそれを専門にしているお店というのは私が忙しいせいかもかもしれませんが見かけなくなっていました。李梅芳先生のところに居たときに、誂えでポソンを作って頂いた事があるのですが、それはやはり履き易かったです。

— やはり専門店で注文したのですか？

寿玉 実は先生のお姉さまに作って頂いたものなのです。先生のポソンの型紙を基に、私の型紙を起こして下さいました。李梅芳先生の名前が書かれています。

る古びたボール紙に線を引いて作って頂いたその型紙、今でも大切な私の宝物です。あつ、ポソンの話に戻りますが、踊りを踊るときに、髪や衣装がピシッと来ないと： というのはありますが、実はポソンが決まらないというのが一番嫌です。

— えつ、単なる小道具ではない？

寿玉 そのとおりです。버선발이 예뻐야지, 포송니의 아름다움이라고 말할 수 있는 것이죠. 포송니의 아름다움은 춤의 아름다움과 함께 어우러져야 합니다.

— そのためのご苦労やお心遣いなどもおありでしょうか？

寿玉 李梅芳先生がよく、ポソンの美しさを諭えて오이씨, 갈은발, 「きゆうりの種のような足」とおっしゃっていました。先輩で素晴らしい女性の踊り手の方が、「昔は少しも足を小さくしようと、ポソンは部屋中を転げ回って履いたものよ。」とおっしゃっていたのを聞いて、ヨロヨロして立っていられなくなるほど小さなポソンを無理やり履いて踊っていたこともあり

ます。今は、美しさは形や小ささだけではなくて、動きが作り出す微妙な表情だということがわかりましたのでそんな無理はしません。それでも、슴뻐진다는 말처럼 포송니를 두껍게 하는 것 같은 느낌이 들 때가 있습니다. 포송니를 두껍게 하는 것 같은 느낌이 들 때가 있습니다.

— 寿玉さんのこだわりの一面を窺ってしまいました。何か踊りを志す方へのお年玉でも？

寿玉 そうですね。いろいろな意味で、「ポソン足へのこだわり」ということでしょうか。

— ありがとうございます。(まとめ・西方恭子)



安東国際

フタエル子チュムパンフェスティバル

安東国際タルチュムパンフェスティバルは、パンフレットによると国内二十一重要無形文化財団体と国外六ヶ国九団体が参加した、国際的に見てもかなり大きな仮面劇のフェスティバルである。2003年度は、九月二十六日から、十月五日までの十日間、安東市内の洛東江の河川敷にあるメイン会場と河回村を中心に行われた。私たちはその後半、十月二日から四日まで見学した。

会場入り口から両側には露店がずらりと続いている。トゥロオセヨ（いらっしやい）と我々に声をかけながらも、アジウム私たちは忙しそうに料理する手を休めない。午前中というのにもう酒宴を開いているグループもある。韓国のお祭の雰囲気はどこか素人っぽくのんびりしていて、いかにも共同体の祭とい



う感じがして、好きである。

最終日、十二時から固城五広大を見る予定で、それまで一杯飲んでおくことに。カンコドゥンオ（一夜干しのそば）とポッサムキムチをつまみに飲む。この店のトンドンジュはヒエのトンドンジュで、ちよつと甘味があつて色は米で作ったものよりも黄色みがかつている。味も、米のものよりはコクがあり大変美味しい。この三日間、いろいろな店に入ってトンドンジュを飲んだが、二つとして同じ味の店がないのが面白い。

さて、それほど多くの仮面劇を見られたわけではないが、その中でも固城の仮面劇が一番面白かった。一番目の場が始まると、ハマノ（河萬鎬）先生は私を見つけ、演技中にもかかわらず隣の席に座った。時々、後ろの幼稚園児をからかいながら、

私と話をする。会場の三分の一が子供たちだ。観衆とのやり取りがあるので、子供たちも見ていて飽きないようだ。

今回は、固城五広大をこういう真つ昼間に野外で見るということが初めてだったので、いろいろと考えさせられることが多かった。まず、マルトゥギを会長の言のうもおこがましいが、これがなかなか良かった。基本舞を教えてもらうときなどは、あの背の高い会長さんが、これ以上のびないというほど真直ぐに手をのびしたり、とにかく大きく直線的なんですよね。少しは表情というものがあっても良いのではなどと思わされる程なんです（大変失礼ですよね）、これが、タル（仮面）を被って野外で踊ると実におおらかで表情もあるんです。踊りの大きさが

がマルトゥギの仮面と合っているんですね。

また、イジエフンさんのハルミの踊りなんですけれど、これはこの先生以外には出来ない踊りでしょう。踊りというより一つの芸能です。最初に登場するとき、まず、短いチョゴリとチマの間から、大きなおなかをプクツと膨らますんですが。これで、子供たちの関心をいっぺんに引き付けます。観客席に水をまいたり、突っ込んで行ったりとにかく、観客を飽きさせるといことがない。この先生の踊りを見ていると仮面劇という言葉の、劇という部分が非常に大きな要素になっているということを感じさせられます。

ピビなどもそうですが、一つの役や仮面によって、まったく踊りが違う。役に合わせて長い間先人たちが踊り込んで作ってきたものがそれぞれの仮面ごとにあつて、皆基本舞を習いながら、年とともに自分なりに踊れる仮面に挑戦して行くのでしょうか。私が、最初に見た横浜での舞台で感じた、「お互いが、全く自由に自分の踊りを踊っている」という印象も、今回の舞台を見て何か納得させられるものがありました。

（津留由人）

ソル

「ソル」というのは韓国の旧正月のことです。元旦を意味することもありません。しかし普通元日のことは「ソルナル」といいます。

日本では殆ど旧正月を祝いませんが、韓国ではこちらが主です。韓国では西暦の正月は単なる連休といった面があり、大して重要ではありません。ですから民族の大移動が起こるのは、旧正月の方になります。

旧正月は元々日本でも旧正月の時期に行っていました。それを強引に西暦を導入したために日本では言葉だけが残って、祝う時期が一月ほどずれてしまうことになりました。で、これから寒くなるという時期に日本では「新春を寿おぎ」などといっているのですからぴんと来ません。

韓国でも西暦を用いています。が、歳時風俗は旧暦で行います。ですから気候と行動とがぴったりに合っているのです、見ていてすがすがしいです。

日本も新年はただの休み、正月は旧で祝う、という風にすれば、季語とも矛盾がなくなり日本の伝統の美しさを皆が享受できるような気がします。

韓国でソルの日に目を引くのが、女性のチマチョゴリやトル

マギです。小雪の舞う中、濃い紅のチマチョゴリを着た女性が、凍てついた山を背景に颯爽と歩いていくのを見ると、思わず見とれてしまいます。冬ざれた枯れ野に咲いた一輪の花といった趣があります。それは春を予感させる光景です。

日本が正月を西暦で行うことで失ったものは計り知れないと思います。

さて、ソルの過ごし方は日本と似ています。朝起きると新しい服に着替え、茶礼という法要をし、目上の人に挨拶をしてお年玉を貰います。子供達は凧揚げや独楽回しをして遊びます。もとも今では都会の子は殆どしません。子供の遊びは今やコンピュータゲームになってしまいました。

大晦日も日本と同じようにして過ごします。大晦日の夜を韓国では除夕あるいは、除夜と呼びます。この日は明け方まで起きている風習があります。もともとは庭にある祠でチエサ（祭祀）をし、雑鬼を払うために明かりを灯して夜明かしをした（これを守歳（スセ）といいます）のですが、このごろは除夜の鐘を聞いて夜遅くまで遊ぶことが多いようです。

昔から大晦日の夜に早く寝

てしまうと眉が白くなるという言い伝えがあります。以前は子供が寝てしまうと白い粉などを眉に塗って、からかったようですが、最近ではそういう遊びも少ないようです。

西暦の大晦日にお寺では除夜の鐘を突きます。ソウルの普信閣は見学の人で、大変な混雑になります。以前はラジオでエミレの鐘の音を放送していました。このごろはどうなのか、知りません。

正月の朝になると福笹籬（ポクチョリ）売りがやってきます。福笹籬というのは、米をよなくたぬに使う道具です。福笹籬は必ず二つ買って、これを壁に掛けます。なぜ二つかは良く分かりませんが、福笹籬を買って壁に掛ける意味は、日本で熊手を壁に飾るのと同じ事です。

福笹籬は米を中に入れるので、それと同じように食べ物がたくさん集まる、つまり、福が集まると言う事を願う習慣です。

（李起昇）

掲示板

◎3月24日（水）18時半
うた芝居「さんねん峠」
現代座 花かご

（於）関内ホール（小ホール）
前売 2500円 趙寿玉出演
子ども 1500円

お問合せ 現代座 花かご
0422（43）1512

◎3月27日（土）15時〜
3月28日（日）15時〜

BACCANAKE VOL2
STUDIO CANTINA
発表会

（於）横浜市西公会堂
前売り 2300円

お問合せ オフィス坂田
045（543）0567

◎6月6日（日）午後1時〜3時
インドネシア舞踊

「スアラ・バングリ2004」
（於）江戸川区船越タワーホール
連絡先 河村レトノ（れとの）
03（5569）5288



小さな歩み 大きな一歩 ハングバルコルム 私たちの活動日誌

2003年11月15日
佐倉太極拳交流会

佐倉市民体育会館



砂町文化センターで寿玉先生の生徒さんだった尾崎早瑠子さんが、「韓国舞踊の歩方、身方が気功のようであり、陰陽の変化は太極拳とも共通している」と感じ、是非とも生徒さん達に寿玉先生の踊りを見せたいとのことでの招待です。荷物をごろごろと引つ張りながらの参加でした。

尾崎さんは、お弟子さん、生徒さん何百人も率いる太極拳の主宰者です。尾崎さんの表演の華麗で流れるような動き、力強さに圧倒されました。

体育館のあまりの広さに頭が真っ白、膝はガクガクの状態です。「立舞」の群舞を踊り「プチュチュム」「寿玉先生のソロの「チャングチュム」そしてフィナーレの先生を交えた四人の「ソゴチュム」です。

終わった後の体育館で私たちは

思わぬことに皆さんから写真攻めにありました。踊り、チマチョゴリの美しさをほめて下さり、各支部の皆さんから声が掛かり、一緒に写真に収まることになりました。こんなに喜んでもらえて本当にありがとうございます。楽屋での心配り気配りにも感謝の気持ちでいっぱいです。尾崎さんありがとうございました。

2003年12月6日
『響けアジアの音』公演

奥多摩文化会館

野上圭さんのご尽力で続いている「アジアの手をつなぐ女性の会」が主催しています。国籍、宗教、言語の違いを超えて互いの文化に多くの方々に触れていただけて何かを感じ、理解していただければとのことで、今年で四回目です。

インドネシア舞踊、日本の新舞踊、琉球舞と三線、フィリピン舞踊と続き、私たちの出番になりました。

寿玉先生の厳かな「僧舞」が始まると手を合わせていた人がいたと聞きました。先生の「僧舞」は気品があり息をのむ美しさで皆さんを魅了していました。五人組の「プチュチュム」では、シズシズと扇を広げて出て行った時、客席

から「まあ綺麗」という声が聞こえ、その声に勇気付けられ、少し笑顔が出ました。

お互い後ろ向きで輪になり、大きな扇の花を咲かせるとき、ピニヨ同士がカチツと音を立てて絡み合い、一瞬焦る場面もありましたが、暖かい拍手で踊り切ることが出来ました。

プチュチュムの5人に多美さんが加わり、民謡も今回初めて披露です。披露といっても明姫先生の後ろについて声を張り上げるのに精一杯でした。

最後にノレに合わせて出演者、観客の皆さんと一緒に踊り心ゆくまで存分に楽しんで終わることが出来ました。

2003年12月14日
おさらい会

四谷地域センター

昨年の締め括りとして「おさらい会」がありました。一年間の成果を出し合い、お互いを確認する場でもあります。

朝早くから集まり、寿玉先生の厳しい声が飛び入りハーサルをしながら、衣裳にアイロンを掛け、髪を整え、お化粧をしました。お互い助け合いながら着々と支度を出るようになりました。3ヶ月前のトム

トムの時のテンヤワンヤの楽屋とは大違いです。

衣裳は寿玉先生のこだわりの影響で年々充実していき、華やかで美しく、みんなきれいです。あつという間に時間は過ぎ、緊張の「おさらい会」は始まりました。年の瀬の忙しい時期、多くの方が見に来て下さいました。

練習の成果を出し切れた人、出し切れずに落ち込んだ人、様々ですが、また一年頑張りましょう。今年「発表会」になりそうです。

去年は固城五広大のワークショップ、夏の合宿、そして公演を三つもこなし、それからおさらい会と、慌ただしく過ぎ去りました。今年もきつと忙しい年になりそうな予感がします。(趙富士)

